

【全体概要】

本県平坦部では、早生熟期品種の作付面積率が低く収穫調整作業の集中による品質低下が危惧されている。また、中食外食業者を含む実需者からは、業務用米の生産量増が求められている。そこで、本事業では本県の早生熟期に、「多収性」「病虫害抵抗性」と「良質良食味性」を目的として育成した「愛知135号」を導入することで、平坦地の生産安定を図る。

新品種・新技術等の概要

実需者からの評価が高い中生品種「あいちのかおりSBL」に耐暑性を付与し、出穂期を早めた品種。

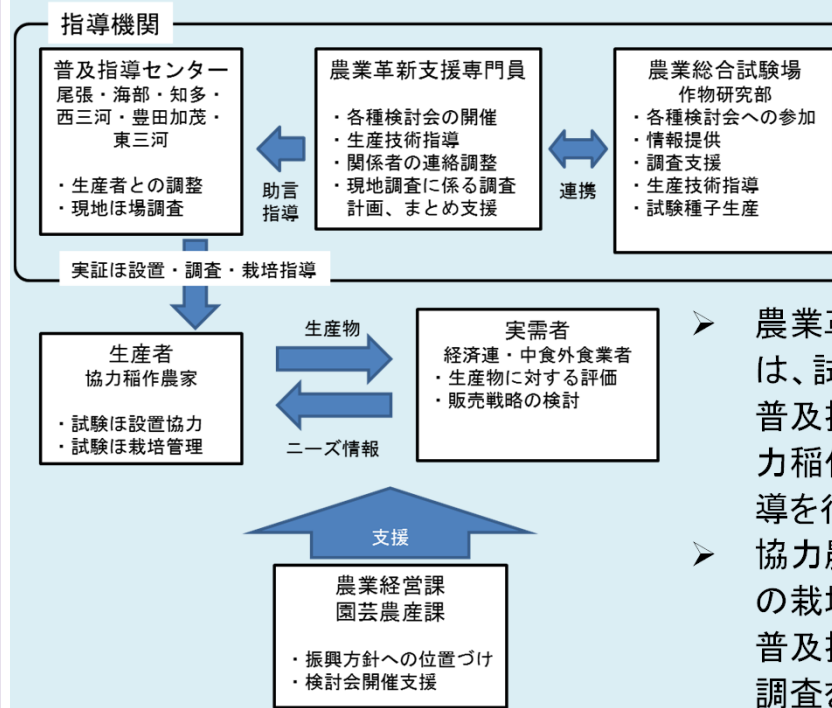
- 出穂期は早生品種の「あさひの夢」と同等で、「あいちのかおりSBL」より7日程度早い早生熟期に該当する。
- 耐暑性を有し、白未熟粒が生じにくいいため、玄米の外観品質が優れる。
- 「あさひの夢」より大粒で、精米時の歩留まりが優れる。



主な取組内容

- 平坦地域における現地適用性の検討
- 栽培マニュアル策定に向けた栽培試験
- 栽培マニュアルの策定
- 産地、実需者等を交えた意見交換会の開催

実施体制図



- 農業革新支援専門員は、試験場と連携し、普及指導センター、協力稲作農家へ助言指導を行う。
- 協力農家は、実証ほの栽培管理を行い、普及指導センターは調査を行う。

課題と今後の展開

- 平坦地における現地適応性を確認し(R2、R3)、試験結果を基に栽培マニュアルを策定した(R3)。
- 令和4年産作付面積は94ha。